

ごあいさつ

神奈川県障がい者芸術文化活動支援センターは、障がいのある人が身近な地域でアートに触れられる機会が生まれることを目指して、令和2年度から活動を続けています。障がいのある人にとって表現をすることが豊かな暮らしにつながること、アートが障がいの有無に関わらず混ざり合う場をつくることを実感してきました。

令和4年度には「神奈川県内福祉施設への芸術文化活動に関する調査」を行い、その結果から地域に開いたアート活動に取り組む福祉施設がたくさんあることが見えてきました。また文化施設に目を向けると、障がいの有無に関わらずみんなでアートを楽しめる場をつくっているところも増えてきています。福祉施設と文化施設が、障がいのある人やアートに出会う場となり、そこで生まれた気づきや発見がさらに地域を豊かにしていくことにつながるのではないかと思います。

このマップが、みなさんにとって素敵な出会いのきっかけになれば幸いです。

目次

▶ インタビュー：障がい福祉とアートが出会う場で見える風景

- 04 ● アートかれん／NPO法人かれん(横浜市)
- 06 ● studio FLAT／NPO法人 studio FLAT(川崎市)
- 08 ● studio COOCA／株式会社愉快(平塚市)
- 10 ● Jump／NPO法人ハイテンション(厚木市)
- 12 ● アール・ド・ヴィーヴル／認定NPO法人アール・ド・ヴィーヴル(小田原市)

▶ いっしょにたのしむおさんぽマップ

- 15 ● 横浜市北部
- 16 ● 横浜市南部
- 17 ● 川崎
- 18 ● 相模原
- 19 ● 横須賀・三浦
- 20 ● 湘南東部
- 21 ● 湘南西部
- 22 ● 県央
- 23 ● 県西

- 24 ● 関連サイトリンク集

インタビュー：

障がい福祉とアートが 出会う場から見える風景

ここでは、神奈川県内で障がいのある人がアート活動に取り組む場をつくり続けている

5つの施設にお話をうかがったようすをご紹介します。

障がいのある人とアートが出会うきっかけや取組みを豊かにするヒントなど、

アート活動をとらえて見えた風景を教えてくださいました。

アートかれん / 社会福祉法人かれん



お話をうかがった方



天本健一 (てんもと・けんいち)さん
アートかれん サービス管理責任者

片江公紀 (かたえ・ひろのり)さん
アートかれん 生活支援員



二木詩織 (ふたつき・しおり)さん
アートかれん 生活支援員



「アートかれん」は2002年4月に開所。通所するメンバーが絵画・手織りなどの創作を行う場であるとともに、施設内に併設された「ギャラリーかれん」の企画・運営を行っています。ギャラリーでは、かれんメンバーの作品だけでなく、地域のさまざまな人たちにも提供しており、発表の場として活用されています。

美術で福祉の可能性を広げる

みなさんがアートかれんの活動に携わるようになったきっかけを教えてください。

片江: 私たち3人は全員、美術大学を卒業しています。福祉よりも美術活動の方が馴染みのある状態から働き始めました。「アートかれん」を立ち上げる時に、福祉の人材を雇用するというよりは、美術をサポートできる人材を探すという方針だったようです。

福祉の世界に飛び込んで、気づいたことはありますか。

片江: よく障がいのある方々の作品に対して、アールブリュットとかアウトサイダー・アートとかいうふうに、呼ばれることがあるかと思えます。私も初めはそういう認識で見えていたんですが、表現者というところでは、何も変わらないなと思うようになりました。

二木: みなさんの作品の作り方が、自分が今まで見てきたやり方と全く違うっていう新鮮さがありましたね。キャンパスに5分ぐらいで描いちゃったりとか、10分暇だから絵でも描くか、みたいな感覚が面白くて(笑)。

日々の営みとしての創作を大切にしたい

活動に取り組むなかで、感じていることはありますか。

天本: どうしても、作品をつくって販売して、欲しい方にうまく行き



訪問日 2022年12月15日
施設名 アートかれん
運営団体 社会福祉法人かれん
サービス種別 生活介護
主な障がい種別 知的障がい

 住所 横浜市港北区大倉山1-11-4
電話 045-543-3577
web http://karen.or.jp/?page_id=40



渡って、お金も入って、というような、アートのマーケットみたいな考え方になってしまうことに、苦しさを感じていました。本当は、作品をつくることばかりが目的じゃなく、日々を営んでいくことが大切だと思っています。みんながみんな「有名なアーティストになるぞ」という感覚ではなく、好きだから作るというか。

片江: 日中活動の場所として、というところを一番大事にしていきたいですね。その中で、利用者ご本人がどう思ってるかっていうのは、なかなか推し測れない部分があって。支援者も作家として応援していきたいという気持ちもありながら、ご本人は、そうでもないなというところもあります。ただ、最初は興味を示さなかった利用者の方が、年数を追うごとに展示されたときににこにこしてたりとか、そういう変化も見られることもあります。

天本: 以前は絵画を専門的にやるという感じでしたが、今はもっと刺繍や手芸クラフトなどの作業も増えてきています。そういうのが得意なスタッフも集まってきているし、利用者みなさんもスタッフと一緒に作業するのが好き。その時々で、みんなの一番関心のあるものを活動にしています。

無理せず、できることを続けていく

長年の活動に対して、他の施設からアドバイスを求められることもあるのではないのでしょうか。

片江: 新規でアート活動を始めたい福祉施設の方や、ギャラリーをやっ

ている作業所の方が、見学にいらっしゃることもあります。

天本: でも、あまり「こうやったほうがいいよ」という積極的なアドバイスはできないんです。強いて言うなら、指導しないでください、ということですかね。道具を揃えて、展覧会など外部の人に見てもらえる機会をつくるのが、我々の仕事かなと。自分たちもできそう、みたいに思ってくれるといいですね。ささやかながら、こつこつとやってる。そういうことを続けていく感じなんです。

片江: 利用者の皆さん含めて、無理せず取り組める範囲で取り組んできた。だから長く続けられてきたのかなっていうのは感じますね。

今後の展望を教えてください。

片江: まずはみなさんが活動する環境を整えて、その上で気持ちよく制作してもらうことが第一だと思います。そこを大事にして、そのペースでできる範囲のことをやっていけば、活動のなかで少しずつ変化が生まれて、新たな発見も出てくると思います。ちょっとずつ、新しいことに挑戦していきたいという気持ちです。

二木: 最近はネットショップを始めたり、長野の高齢者施設とコラボレーションした布草履をつくったりしています。

天本: これはアートかれんとしてでかいプロジェクトですね(笑)。



お話をうかがった方



大平暁(おおだいら・さとる)さん
NPO法人studio FLAT理事長

studio FLATは(スタジオ・フラット)、知的障がいのあるアーティストたちのための活動拠点として2016年に誕生しました。2021年からアトリエやギャラリースペースを持つ現在の場所に移転し、障がいのある人たちのアートによる共生、経済的な自立を支援しながら、就労としてのアート活動を展開しています。「FLAT」という名前には、障がいのあるなしに関わらず作品の魅力そのものをフラットに感じてもらいたいというコンセプトが込められています。

障がいのある作家たちの自立をサポートしたい

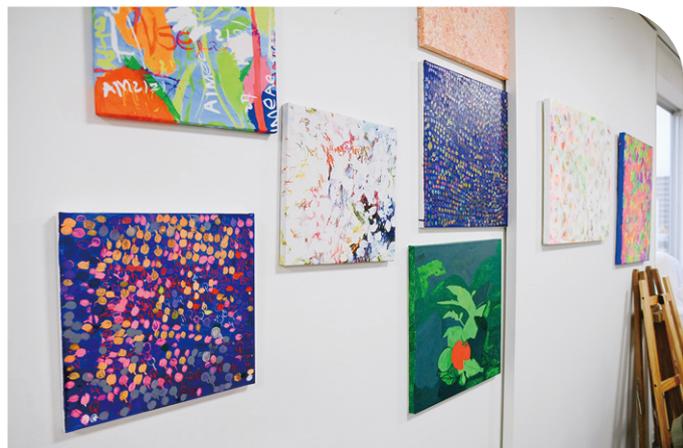
「studio FLAT」(以下、FLAT)の活動は、大平さんの福祉施設での絵画講師の経験や、自閉症の作家との出会いがきっかけになっていると伺いました。

大平: FLATの活動を始める10数年前、新しく立ち上がった福祉施設で絵の講師をやらせてもらいました。その時、すごく才能がある方がいて、当時は漫画家とアシスタントみたいな感じで、彼が描いた絵を私が清書するような作業をしていました。すごくこだわりの強い方だったので、少しでもイメージと違うと全部消されちゃうんですよ。そういうことが重なって行き詰まっていた頃、私がケガしてしまい、彼が真っ先にばんそうこうを持ってきてくれたことがありました。この時に、アートをとおして彼と心が通じていたんだなと実感したんです。徐々にお互いを認め合うことができたと思い始めたときに、彼が亡くなってしまいました。それまでできていなかった、作品を販売していくための整備をしなければいけないと強く思い、現在に至ります。

アートを通じた地域交流

FLATでは、アトリエやギャラリー運営のほかにも多様な活動をされています。

大平: コロナ禍真っ只中の2020年1月にここを開所しました。オン



訪問日 2022年12月5日
 施設名 studio FLAT
 運営団体 NPO法人studio FLAT
 サービス種別 生活介護
 主な障がい種別 知的障がい



住所 川崎市幸区北加瀬2-11-3 コトアガーデン新川崎 SOUTH棟3F
 電話 044-200-4664
 web <https://studioflat.or.jp/>



ライン展示会を通して作品が売れ、展示をして見せるだけではなく、所有してもらったところまで責任を持ってできている手応えを感じました。また、アートのサブスクリプションのサービスも広がってきていて、不動産会社と共同で、マンションの居住者を対象に作品を貸し出しています。ちょうどコロナが猛威を奮い、世の中が閉鎖的になっていくなかで、自宅に絵を飾りたいという需要がありました。最近ではデパートの展示スペースにも作品を卸しています。アーティスト本人に配達に行ってもらうことでお客さんとの会話も生まれ、地域と交流できていると感じています。

施設自体も地域の中にもありますが、交流があったりしますか。

大平: すぐそこに保育園があり、そこでみんなでワークショップを一緒にやったことがあります。子どもたちも地域の人も、FLATのみんなを「障がいのある人」というよりは「絵の上手な人たち」みたいな感じで接してくれるのは、すごくよかったと思います。

その人の得意を、少しずつ広げていく

これからアート活動をしたいと考える方に向けて、なにかヒントはありますか。

大平: まずは画材を用意することですね。とにかく自分たちで色を選ん

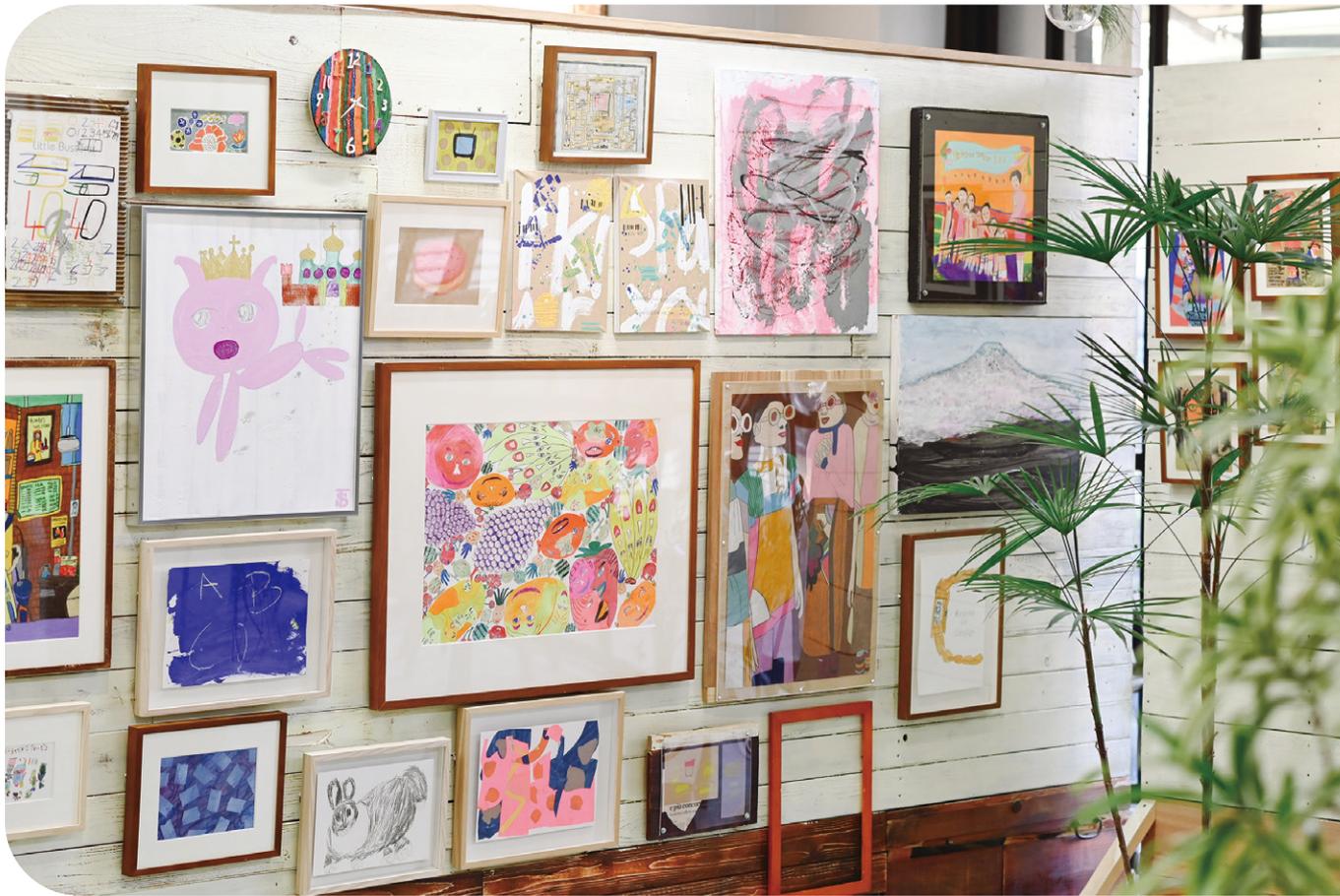
で、画材屋さんで絵の具を買って、筆も買って、クレヨンや色鉛筆もいいものを買って。何を描くとか決めなくても、画材を用意していたら絶対やり始めちゃうから。もう、ぐちゃぐちゃでもいいので、とにかくやってもら。それを続けていくと、その人の得意なことがなんとなく見えてくるんですよ。色鉛筆が得意な人、絵の具をどんどん重ねていくのをやりたい人とか。それにちょっとずつ寄り添って描いてもらうようにしていく。最初から、何かやらなきゃとなると大変だから、画材と紙だけ用意して「さあ、どうぞ」でいいんですよ。そこから、少しずつ得意なものを広げて伸ばしていければいいと思います。あとは、スタッフも楽しんでやるというのが一番だと思います。

今後、広げていきたい活動はありますか？

大平: 今、NFTアート※に取り組み始めています。これからきっと当たり前になってくる仕組みではないかなと思っています。こういうものに怖がらずに取り組めるようなベースを、私たちが作っていったらいいかな。NFTが普及していけば、より幅広い人たちに興味を持ってもらえるのではないのでしょうか。展示するだけじゃなくて、作品に価値があるということを広げていけたらと思います。

※唯一無二であることが証明されたデジタルアート

studio COOCA / 株式会社愉快



お話をうかがった方



関根祥平 (せきね・しょうへい) さん
studio COOCA 施設長

関根幹司 (せきね・もとし) さん
株式会社愉快 代表取締役



「どう食うか」を問い続けて

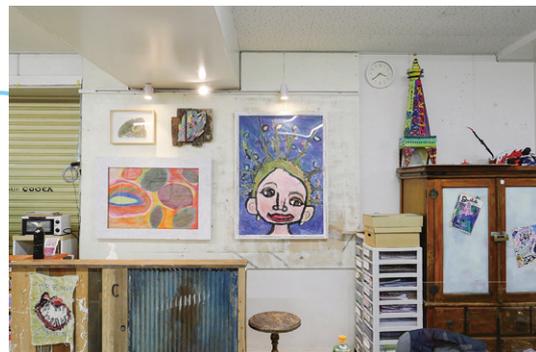
studio COOCA (以下、クーカでは、これまで絵画制作、展示、グッズ販売やパフォーマンス活動などをさまざまな実践をしてきました。現在の取り組みについて、教えてください。

関根(祥):以前、クーカのギャラリーだった部分は、弊社から独立した法人がギャラリー・カフェを運営しています。いまは、もともとアトリエにしていたビルの1階にギャラリースペースをつくっています。創作は活動の基本としてあるのですが、ほかにヨガをやったり、畑に行ったり、音楽をやってみたり、絵画表現ではない部分で、利用者の方へどれだけの選択肢を用意できるのかを考えています。地域の陶芸作家の方に来てもらったり、平塚の農業法人の畑に遊びに行かせてもらったり、地域とつながりを持ちつつ活動しています。

農業などに活動が広がるきっかけはなんだったのでしょうか？

関根(幹):津久井やまゆり事件があり、そこで「生産性」という言葉が出てきました。日本全国の福祉施設では工賃アップや商品化をどうするか、つまり生産性をどう向上させるかということを考えているわけですが、単に売り上げだけを求めていく、それでいいのだろうかという想いに非常に駆られて。だから、ものを作るとか売るとかっていうところを、もう一度見直すべきだと感じました。「今どうやって食う

studio COOCA(スタジオクーカ)は2009年の設立以来、就労支援として創作活動を始め、作品の積極的な発表、企業とのライセンス契約などをとおして、アート×福祉の可能性を模索し続けてきました。現在は、絵画創作活動を中心に、農業など様々な方法で社会へ発信し、地域とつながっていくことを目標に活動しています。



訪問日 2022年12月5日
 施設名 studio COOCA (スタジオクーカ)
 運営団体 株式会社愉快
 サービス種別 生活介護、就労継続支援B型
 主な障がい種別 全種別対象

住所 平塚市平塚4-15-16
 電話 0463-73-5303
 web <https://www.studio-cooca.com/>



か？」で「COOCA(クーカ)」なんですけど、生きていくという広義の意味で「食う」ということを考え、私たちの支援や活動をあらためて見直したいと思っています。

表現に向き合い、葛藤することが職員のやるべきこと

福祉施設の活動のなかに、アートをどう位置づけたらよいか、悩んでいる人も多いのではないかと思います。

関根(祥) : 芸術って、アートってなんだろうって、いまだに誰も分からないままだと思います。誰かが見出して、何を言われようと「これはすごいんだ」って言い続けるしか、成り立たない気がしています。クーカでも、1本200円する色鉛筆を口で割って、中の芯で描く人いるんですけど、それをどう捉えるか議論があって。いろんな福祉施設で、そういう議論をしたほうがいいと思うんです。

関根(幹) : もったいないというのが、われわれは働いちゃうんですけど、彼らはそれを越えてさくさくと、やりたい表現をやってるわけですね。最終的にキャンパスの上で完成されたものだけが表現なのではなくて、割るっていう過程があつての表現なんです。でも、作品がそれに見合っただけで簡単に売れるわけではないので、もったいないとの葛藤が常にある。その葛藤が、施設がやるべきことだと思うんです。今までの福祉のやり

方は、「もったいない」をどう教えるか。そこにアートが入ってきて「表現としてみたら全然もったいなくもないよな」って考えるようになると、僕はすごく楽になりました。

関根(祥) : 代表はもともと、市場に乗らなかった障がいのある人の作品を、適正な価格を付けて、みんなに見てもらおう道筋を開拓してきました。売れる・売れないっていうよりも、作って終わりにせずきちんと第三者に届くように発表する行為そのものが、大事だと思っています。

豊かな暮らしを軸にした福祉とアート

今後の展望を教えてください。

関根(祥) : 地域のなかで、肩肘張らずに障がいについて考えるきっかけを生む場所になるといいですね。福祉は暮らしを豊かにするっていうところに軸がないといけなじゃないかなと思っています。そしてアートは暮らしのなかにある、生活を豊かにしていくための一部だと思っています。だからここはすごく豊かなな、いい暮らし方の提案をしているなという施設のモデルをつくりたいです。

関根(幹) : アートって、生きていくうえでかなり便利なツールだと思うんです。老若男女、国籍も関係ない、世界共通語ですよ。これを活かしてさまざまな分野とつながっていきなりたいと思っています。

Jump/NPO法人ハイテンション



お話をうかがった方



かしわ哲(かしわ・てつ)さん
NPO法人ハイテンション 理事長



酒井真弓(さかい・まゆみ)さん
Jump サービス管理責任者

NPO法人ハイテンションは、表現活動によって障がいのある人だけではなく、社会参加に課題がある人や広く一般の人達が、地域の中で豊かな暮らしを営むことを支援しています。生活介護事業所「Jump(ジャンプ)」では、音楽やアートを中心に活動しており、全国のさまざまな場所でライブやリズムワークショップを開催。ロックンロール型エンターテインメントチームとして、たくさんの人々に元気と笑顔を届けることを仕事に結び付けています。

全国に広がる音楽のつながり

NPO法人ハイテンションを立ち上げたきっかけを教えてください。

酒井: 私たちは、「サルサガムテープ」というバンドをもう28年やっています。この「NPO法人ハイテンション」が立ち上がったのは、理事長のかしわ哲が始めたそのバンド活動が元になっています。最初はバンドになるなんて考えてなくて(バケツにガムテープを貼った)「ガムテープ太鼓」をみんなで作って音を楽しんでいました。活動が展開するなかで障がいのある方のお仕事にしようと、福祉事業所を始めました。正解を求めて指導しないことと「その人の表現したい世界を否定しない」ということを理念としてずっと大事にしています。

法人設立から10年以上が経ち、障がいのある人の表現活動の機会について、広がりを感じますか。

酒井: 法人設立当時は、音楽やダンス、身体表現など、そういうパフォーマンス活動をする人たちとのつながりが、あまりありませんでした。「出会っていなかった」というのが正しい言い方なのかもしれません。今は全国に仲間がいて、お互いの地方を行き来し合って一緒にライブをするようになってきているので、すごく広がったなと思っています。

そのような広がりや変化は、何が影響しているのでしょうか。

酒井: 自分たちでどんどん外に出ていったんですね。そして自分たち



訪問日 2022年12月22日
 施設名 Jump
 運営団体 NPO法人ハイテンション
 サービス種別 生活介護
 主な障がい種別 知的障がい、身体障がい



住所 厚木市旭町2-9-15 メゾンサモワール1F
 電話 046-281-7737
 web <http://hitension.org/>



の活動だけ突出していけばいいということではなくて、全国の障がいのある人たち、バンドや音楽をやっている人たちをもっと盛り上げていくということを、自分たちの事業の中心にしていました。そういうことを地道に何年かかけてやってきたことがあって、広がっていったのかなと思っています。言葉で投げかけていくということも、やらなきゃいけないことだと思うんですけど、やっぱり私たちには表現があるので。表現をとおして、より心をのせていきたい。音楽やアートがあってよかったなと思っています。

「楽しむ気持ち」を大切に

毎日のようにセッションされていると思うんですが、セッションメンバーとしてはみなさんをどんなふうに感じますか？

酒井: もう面白いですね。かしわが作ってきた新曲をみんなで演奏すると、すぐに掛け声を入れるとか、ダンスをすとかいうアイデアがどんどん出てくるんですね。ひとつの楽曲がもっと膨らんで大きな表現になっていく。それはすごく楽しいです。

福祉施設で音楽に取り組むとなるとハードルが高いと感じてしまう場合が多いように思います。

かしわ: 難しいですよ。やっぱり自分の中に「Fun(ファン)」を持つこと

だと思います。楽しさや気持ちよくなることを、やりたいと思う人のなかに強く持たないと、楽しく発展していかないと思うんですよね。自分のなかに、そういう核となるものが燃えているかどうかということが、一番大事なんじゃないかなあ。何か福祉的な支援ということで燃えているんじゃないなくて、本当に自分が音楽やりたくて、やりたくてたまらないんだによって。すごくシンプルな答えですけど。

これから挑戦してみたいことはありますか。

かしわ: 「サルサガムテープ」は、2024年に30周年を迎えます。

酒井: 世界進出したいですよ。「アイタイ！」という楽曲で、世界とつながるっていうのができたかなあと思うので。あとは、全国のつながりのあるみなさんと一緒に、大きいライブをしたいなと思っています。

かしわ: 「アイタイ！」でできたバンドのネットワークは、2015年から呼びかけて、だんだん広がってきています。例えばみんな集まって、武道館でやるとかね。そういうことが実現した場合、今の音楽シーンに対するカウンターカルチャーというか、ものすごい衝撃だと思うんですよ。みんなで連携して、大きなムーブメントを作りたいです。

アール・ド・ヴィーヴル／NPO法人アール



お話をうかがった方



萩原美由紀 (はぎわら・みゆき) さん
NPO法人アール・ド・ヴィーヴル 理事長

アール・ド・ヴィーヴルとはフランス語で「自分らしく生きること」。障がいがある人を対象とし、「障がいがあっても自分で選択していく人生を送ってほしい」という願いのもと、アートを中心とする創作活動の場を提供しています。2013年8月にNPO法人化。2016年春より小田原市久野に活動拠点をもち、2021年には現在の場所に移転、カフェギャラリーをオープンさせました。

「自分で決めること」を大切に

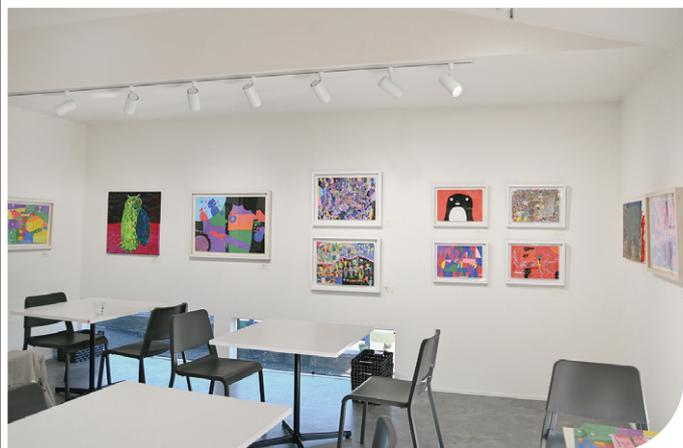
アール・ド・ヴィーヴルを立ち上げたきっかけや、当時の想いはどのようなものだったのでしょうか。

萩原：最初は絵を描く場所も展覧会を開く資金もないなか、障がい児を持つお母さんたちと手弁当で場をつくっていき、2013年に初めて展覧会を開催しました。活動は当事者の声から決まっていますが「なにがしたい？やりたかったのにできなかったことはある？」という問い掛けをしたときに、「ピアノのお稽古を断られちゃった」といった話がありました。やりたいことを、障がいがあるが故に断られてしまった現実がある。一つでも楽しい世界を見せてあげたいという思いから、絵や陶芸、ヨガなどプロの先生たちに集まっていただいて、親子で参加してというふう呼びかけて、組織ができていきました。

活動開始当初から現在、どのような変化があったように思われますか。

萩原：学校を卒業した後の暮らしに課題を感じ、施設を立ち上げました。ここで楽しく絵を描きギャラリーで展示し、料理し、カフェの接客をする。仕組みをちゃんと作っていけば、対価がもらえるようになってきます。みんな自分の役割があるものすごく力を発揮するんですね。そうしているうちに、「自分でやる」「これやりたい」と言ってくれる人が増えてきた。それは最初のころと違うな、と感じます。どんな絵を

・ド・ヴィーヴル



訪問日 2023年1月11日
施設名 アール・ド・ヴィーヴル
運営団体 NPO法人アール・ド・ヴィーヴル
サービス種別 生活介護、就労継続支援B型
主な障がい種別 全種別対象



住所 小田原市久野403-17
電話 0465-25-4534
web <http://artdevivre-odawara.jp/>



描こうとかいうのも、本人が決める。それをやり続けてきたことで、自己肯定感やコミュニケーション力が上がっていると思います。

福祉施設がギャラリーを持つ意味

職員のみさんのなかには、美術の専門的な知識を持った人がいるのでしょうか。

萩原:美術関係の人は誰もいないです。私たちは、利用者さんに絵を指導したことが一回もないんです。自分で選べる道具がいくつもあって、それを整えながら提供できる場所を支援するというのが、職員の役割だと思っています。展示や製品化についてはアートディレクターの中津川浩章さんにアドバイスをいただいているのですが、中津川さんから「個性を尊重した支援を」と言われたことをすごく大切にしています。

ギャラリーで展示することでお客さんと作者が出会えるのはいいですね。

萩原:お客さんのコメントを直接本人が聞くなどのやりとりがあると、そこから障がい理解が深まるんです。そうして作者を街で見掛けたときに、話しかけてくれる人がいたらいいなと思って。うちは別にスターを売り出すためにやってるわけじゃなくて、スターができたとしても、その人をおして障がいのある人たちに接する機会をつくらせてあげたいです。利用者の方々にとっては、自分で考えて決める時間が大事だし、描いている時間が楽しくてこの施設にいる。その副産物で作品が売れて工賃

をもらったときには喜んでくれますが、それだけに一喜一憂せず、ここに毎日来ることによって心身の安定を図るかっていう方が福祉施設としては大切なところかなと思います。

つながりのなかで自立する

今後の展望を教えてください。

萩原:もっと工賃を向上しながら、彼らがちゃんと社会的な自立ができるようにしていきたいと思っています。例えば一人暮らししたいとか、親から離れてグループホームに行きたいとか、っていう要望もあるんですね。それを実現できるような環境を整えたいと思っています。

50人いたら50人通りの将来がありますよね。

萩原:「ここに来てこんな出会いがあったら良かった」と言ってくれるんですが、そういう場所がもっと増えていったらいいなと思います。県内各地に同じことを求めている障がいのある人がいると思うので、その人たちに向けて何が出来るかを考えてほしいです。これしかできない人たちだからっていう概念は外して、彼らの可能性に目を向けたときと良さが見えてきます。企業や他の施設とつながって行って彼らが立ち立って欲しいというのは、私たちは万々歳。そういう橋渡しを、私たちはもっとやっていきたいと思っています。

※4月より「社会福祉法人アール・ド・ヴィーヴル」となります。

いっしょにたのしむ おさんぽマップ

ここでは、神奈川県内でアート活動を行っている福祉施設とその地域にある文化施設を、県内を8つの区域に分けた障害保健福祉圏域ごとにご紹介します(横浜市のみにさらに2地域に分けています)。身近な地域でアートに触れてみたいと思ったときに、ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。

◆ 横浜市北部・南部 ◆ 川崎市 ◆ 相模原市 ◆ 横須賀・三浦 ◆ 湘南東部 ◆ 湘南西部 ◆ 県央 ◆ 県西

アートに出会える福祉施設

特に、障がいの有無に関わらず地域に暮らすみなさんが訪れる場やイベントを開いている福祉施設をご紹介します。

地図上では数字(1~36)で表示しています。



おでかけスポット

バリアフリーの状況が整っている、障がいのある人に向けた取り組みを行っているなど、障がいのある人も訪れやすい文化施設をご紹介します。

地図上では英字(A~R)で表示しています。

※掲載している情報は、令和5年3月時点の内容です。詳細な情報については各ウェブサイトなどから確認いただくか、直接お問い合わせください。



1 : 350000
0 5km

横浜市北部



横浜市民ギャラリーあざみ野 **B**

アートかれん
(→詳細はP.4~5へ)

みどり福祉ホーム **1**

アート屋わんど **3**

カプカプひかりが丘 **2**

地域活動支援センター ひふみ **4**



A 神奈川県民ホール



西洋館



マリナタワー



氷川丸

みなとみらい

アートに出会える福祉施設

㊦: サービス種別 ㊧: 主な障がい種別

1 みどり福祉ホーム **PickUp**

「みどり福祉ホーム」は、重度重複障がいのある人が通所している施設です。言葉でのコミュニケーションが難しい利用者の意思や気持ちを表現する手段として、日々の活動にアート(絵画や織り、紙粘土作品)を取り入れています。紙粘土などさまざまなものに触って、その人の繊細な動きを感じ取り、好きな感触を見つけながら作品をつくっています。施設内の活動のみならず、横浜市北部3区の福祉施設による合同巡回展「ココロはずむアート展」にも参加し、作品を出展しています。日々のなかの「嬉しい」や「楽しい」といった気持ちがかたちとなり、個性豊かな作品が生まれています。



㊦ 生活介護
㊧ 身体障がい, 知的障がい

運営 NPO法人みどり福祉ホーム
住所 横浜市緑区十日市場町808-3 電話 045-984-7878
web <https://midori-fukusi.wixsite.com/midorifukusi>



2 カプカプひかりが丘

㊦ 生活介護
㊧ 知的障がい

「喫茶カプカプ」を開き、地域の人が訪れる場となっています。店では利用者の絵などをデザインに使ったグッズを販売。店を会場に行うラジオワークショップには、お客さんが参加することもあります。

運営 NPO法人カプカプ 住所 上白根町891-18-4-103
電話 045-953-6666 web <http://kapukapu.org/hikarigaoka/>



3 アート屋わんど

㊦ 就労継続支援B型
㊧ 知的障がい

アートスタジオ兼オリジナル雑貨店での活動を通して、社会とのつながりを大切にしています。また演劇やアートのワークショップをホールや店舗で行うなど、地域の人と一緒にさまざまなイベントを開催しています。

運営 NPO法人ぷかぷか 住所 横浜市緑区霧が丘3-25-2-205
電話 045-923-0282 web <https://www.pukapuka.or.jp/art/>



4 地域活動支援センター ひふみ

㊦ 地域活動支援センター
㊧ 精神障がい

活動を通じて仲間をつくり協力していく、安心できる居場所を目指しています。またひとり一人の強みを活かした創作活動を支援し、施設内外で発表の機会をつくるなど、アートを活用して地域や社会とつながる活動をサポートしています。

運営 NPO法人あすなろ会 住所 横浜市神奈川区六角橋6-2-13
電話 045-548-5742 web <https://www.hifumi.yokohama/>



おでかけスポット

A 神奈川県民ホール

車いす席を備えた大ホール、小ホールでは幅広いジャンルの公演やコンサートが開催されています。5つの展示室があるギャラリーは県内最大級。サポート付き公演も開催しています。

運営 公益財団法人神奈川芸術文化財団
住所 横浜市中区山下町3-1 電話 045-662-5901
web <https://www.kanagawa-kenminhall.com/>



B 横浜市民ギャラリーあざみ野

展示室やアトリエを美術活動する方々へ貸し出しするほか、企画展やワークショップなども行っています。月1回「障がいのある子どもたちのための親子で造形ピクニック」も開催しています。

運営 公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
住所 横浜市青葉区あざみ野南1-17-3 アートフォーラムあざみ野内
電話 045-910-5656 web <https://artazamino.jp/>





1 : 350000
0 5km

横浜市南部



アートに出会える福祉施設

㊦: サービス種別 ㊦: 主な障がい種別

5 磯子区障害者地域活動ホーム **Pick up**

障がいのある人が福祉施設で過ごす時間を、「おもしろくしたい!」という職員の思いから、一人ひとりの表現に目を向けるアート活動が始まりました。絵などの創作に取り



組むなかで、さらなる展開を模索していたところ、ダンサーによるワークショップを施設で行なう機会を得ました。利用者の新たな一面が見え、表現活動への手応えを感じます。活動は地域に広がり、地元商店街でアーティストとともにイベントを開催。日常的に地域の人とあいさつを交わすようにもなりました。いまは町の清掃活動で使う用具を入れる台車「とんとこ列車」を制作中。アートの持つ、お互いの違いを肯定していく力や包容力が、日々を豊かにしています。

㊦ 生活介護
㊦ 身体障がい, 知的障がい, 精神障がい

運営 NPO法人 新
住所 横浜市磯子区磯子2-29-51 電話 045-751-7055
web <https://www.facebook.com/isokatuevent>



6 やまぶき工房

のどかな自然のなかで、主に革製品とナイロンチュールのたわしを製作、販売。地元のお祭りへの出店したり、区内のクラフトイベント等では、製品づくりが体験できるワークショップも開催しています。

運営 特定非営利活動法人 Green Wind 住所 横浜市戸塚区無岡町3438-1
電話 045-821-6005 web <http://yamabuki-kobo.com>



7 スペース杉田

ギターや音楽鑑賞、漫才などのさまざまなサークル活動を行っています。また、地域の人も参加できる演奏会の開催や、YouTubeチャンネルで活動の様子を配信しています。

運営 特定非営利活動法人 ゆっくりいそご 住所 横浜市磯子区杉田4-2-15マンションD・ヴァロン2F
電話 045-772-5641 web <http://space-sugita.cocolog-nifty.com>



8 地域活動支援センター egao

栄区の「アートの拠点」をめざして創作、地域活動を実施しています。活動中にできあがった作品は、施設内や区役所などで販売。また地域でのワークショップ、イベントも開催しています。1Fのカフェにもぜひお立ち寄りください。

運営 特定非営利活動法人 みちくさみち 住所 横浜市栄区長沼町767-1
電話 045-392-7601 web <https://chikatuegao.site>



㊦ ギャラリー-Goozen

2022年4月にオープン。「障がいがある人もない人も。さまざまな人が表現する日常アートギャラリー」をコンセプトに、多様なアーティストを組み合わせた展覧会を企画しています。

住所 横浜市南区六ツ川1-283
電話 080-6559-8040
web <https://www.instagram.com/goozen6/>



㊦ 磯子区民文化センター 杉田劇場

質の高い芸術作品から区民参加のコンサートまで幅広く上演。「杉劇アートdeここにこプロジェクト」では、障がいに関わらずみんなで参加できるワークショップ、展示やライブなどを開催しています。

運営 公益財団法人横浜市芸術文化振興財団/特定非営利活動法人 チーム杉劇/有限会社アイコニクス/株式会社ニックスサービス共同事業体
住所 横浜市磯子区杉田1-1-1らびすた新杉田4F
電話 045-771-1212 web <https://www.sugigeki.jp/>



おでかけスポット



1 : 350000
0 5km

川崎市



アートに出会える福祉施設

9 地域相談支援センター さらん PickUp

「地域相談支援センター さらん」を運営する社会福祉法人青丘社は、韓国・朝鮮にルーツがある人が多く集まる地域で、教会や保育園、高齢者施設、障がい者施設、そして



在日外国人と地元住民の交流施設「川崎市ふれあい館」を運営しています。歴史や文化の違いを、お互いに理解し認め合う土壌を育てていくときに、音楽や言語といった表現を大切にしてきました。ふれあい館では民族衣装や楽器などを体験できるワークショップを開催し、さらんのイメージキャラクターは障がいのある人が描いたイラストが採用されています。年齢や国籍、障がいの有無に関わらず、「違い」は「豊かさ」であると感じられる地域になることを目指し、日々を営んでいます。

④ 計画相談支援
⑥ 身体障がい, 知的障がい, 精神障がい

運営 社会福祉法人青丘社
住所 川崎市川崎区桜本1-9-9 電話 044-270-2250
web <https://is.gd/kMtAC3> (※短縮URL)



10 セルブ宮前こぼと

音楽アーティストを招いて、誰でも参加できるチャリティーコンサートを開催。また、施設を会場としたアートフェスタを実施し、活動中に創作した絵画や、自主製品の販売も行っています。

運営 社会福祉法人みのり会 住所 川崎市宮前区宮前平1-8-12
電話 044-855-9455 web <http://www.tobe-kobato.or.jp/facility/kobato>



11 地域活動支援センターアトリエ言の葉

オリジナルグッズの販売や絵画展、ワークショップを開催。誰でも応募できる「私を伝える展覧会〜わたてん〜」では、地域の人たちや市内の他事業所から集まったたくさんの方の作品を展示しています。

運営 特定非営利活動法人アトリエ言の葉 住所 川崎市宮前区平1-1-17ミタテビル平202
電話 044-948-5983 web <https://kotonoha510.wixsite.com/atelier>



12 なかはら障害福祉施設ひらま(相談交流ひらま)

障がい者の地域生活のサポートのほか、地域に親しまれる場になることを目指しています。地域交流事業として、誰でも参加できるインクルーシブ絵画教室やダンス教室など、障がい者と地域のみなさんが交流できるイベントを開催しています。

運営 社会福祉法人ともかわさき 住所 川崎市中原区上平間1564-12なかはら障害福祉施設ひらま内
電話 044-540-0909 web <https://www.facebook.com/soudankouryuhirama/>



おでかけスポット

E ミューザ川崎シンフォニーホール

臨場感のあるオープンステージと世界最高水準の音響が魅力のホールでは、バリアフリー設備も備えています。年1回の「ウェルカムコンサート」では手話通訳などの鑑賞支援を行っています。

運営 川崎市文化財団グループ
住所 川崎市幸区大宮町1310 電話 044-520-0100(代表)
web <https://www.kawasaki-sym-hall.jp/>



F 川崎市アートセンター

小劇場と映画館等の複合施設。市民参加のワークショップや青少年育成企画にも取り組んでいます。目や耳の不自由な方のためのバリアフリー上映や、配慮が必要なお子さん向けのリラックスパフォーマンスを行っています。

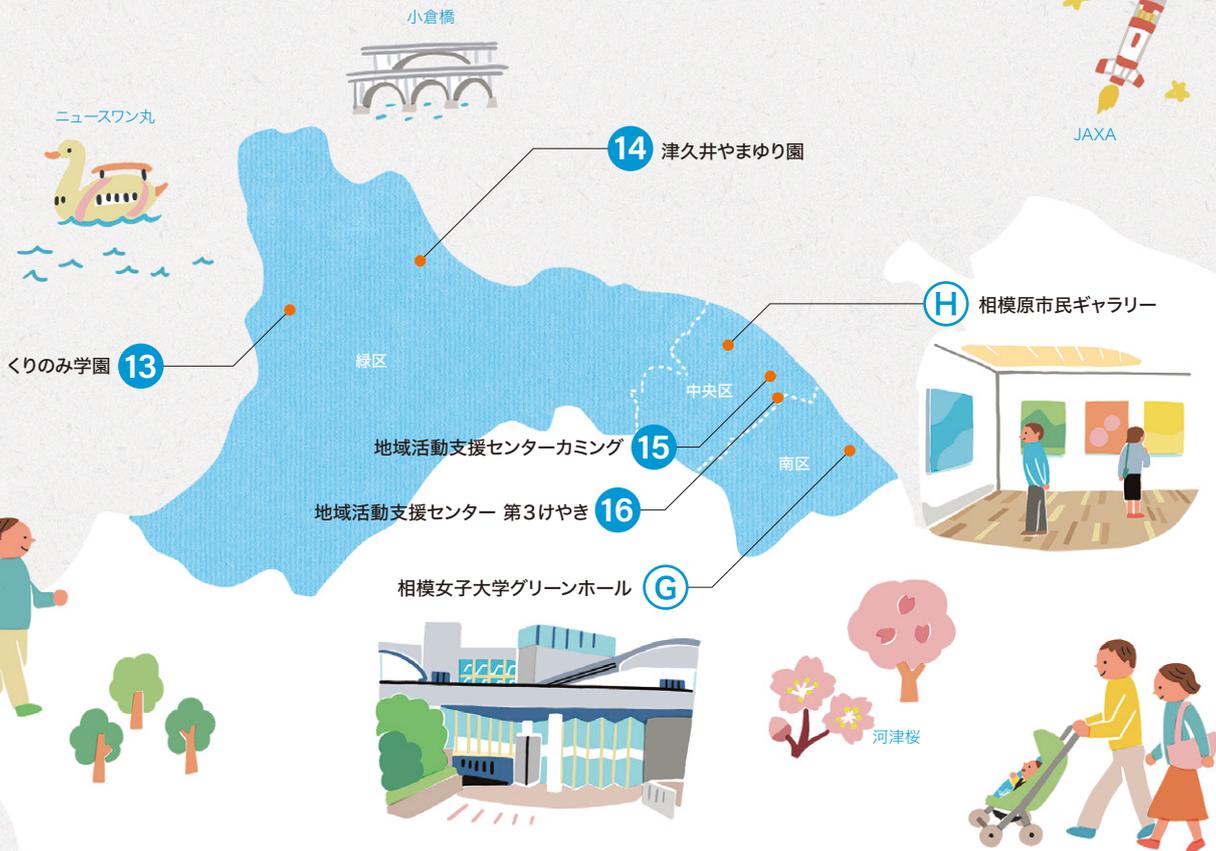
運営 川崎市文化財団グループ
住所 川崎市麻生区万福寺6-7-1 電話 044-955-0107
web <https://kawasaki-ac.jp/>





1 : 350000
0 5km

相模原市



アートに出会える福祉施設

㊦: サービス種別 ㊧: 主な障がい種別

13 くりのみ学園 PickUP

陶芸から始まり、絵画や木工などの創作に発展していった「くりのみ学園」。地域で活動する陶芸作家を講師に招き、助言をもらいながら、取り組みを広げてきました。相模



湖交流センターで開催した作品展では、来場者に自分の作品を見てもらい、自ら作品紹介も行うことで、さらなる創作意欲と自信に結びついていきました。最近では、地元の陶芸家、デザイナー、美術の先生等と協同で地域内の障がい事業所はもとより、高齢者事業所や小学生の作品も一緒に展示するボードレスアート展を3年続けて開催しています。利用者の「作りたい」という意欲を引き出しながら、新たな展開へとつなげています。

㊦ 生活介護、施設入所支援
㊧ 知的障がい

運営 社会福祉法人かながわ黎明会
住所 相模原市緑区牧野6076-1 電話 042-689-2233
web <http://www.kurinomi.com>



14 津久井やまゆり園

㊦ 生活介護、施設入所支援、放課後等デイサービスなど
㊧ 知的障がい

近隣の福祉施設などを招待して童謡やジャズのコンサートなどを開催したり、イベントを通して近隣の学校との交流を図っています。また日中活動には美術クラブがあり、利用者のみなさんが自由に描いた素敵な絵を玄関に飾っています。

運営 社会福祉法人かながわ共同会 住所 相模原市緑区千木良476
電話 042-684-3511 web <https://tsukui.kyoudoukai.jp>



15 地域活動支援センターカミング

㊦ 地域活動支援センター
㊧ 精神障がい

精神障がい者が企画する「さがみスクラム写真展」と、精神障がい者が書いた詩を題材に、一般画家などが描いた絵をともに展示する「さがみハート展」の事務局をしています。展示を通じて、障がい理解が広がることを目指しています。

運営 社会福祉法人かむ 住所 相模原市中央区淵野辺4-15-6 ヴィーナズ2F
電話 042-759-5117 web <http://coming.no.coocan.jp/index.html>



16 地域活動支援センター 第3けやき

㊦ 地域活動支援センター
㊧ 精神障がい

清掃や花壇整備などとおした地域貢献活動や、近隣の小中学校で講演会やけん玉ワークショップを行うといった地域交流活動に力を入れています。また、外部講師を招いた創作活動や音楽鑑賞なども日々の活動に取り入れています。

運営 特定非営利活動法人けやきの会 住所 相模原市中央区由野台2-27-10
電話 042-750-7740 web <http://keyaki.blog.jp/>



G 相模女子大学グリーンホール

相模女子大学グリーンホール(相模原市文化会館)は、舞台芸術の発表および鑑賞の場として平成2年にオープンしました。1700人規模の大ホールと240人規模の多目的ホールには、車いす席も備えています。

運営 公益財団法人相模原市民文化財団
住所 相模原市南区相模大野4-4-1 電話 042-749-2200
web <https://hall-net.or.jp/01greenhall/>



H 相模原市民ギャラリー

美術活動の成果を発表・鑑賞する場を提供することにより、美術文化の振興と市民が主体的に学習する機会の充実を図る施設です。美術資料コーナーでは、関連図書を読覧できるほか、美術に関する相談にも応じています。

運営 相模原市
住所 相模原市中央区相模原1-1-3セオ相模原4F 電話 042-776-1262
web <https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/kankou/bunka/1022300/gallery/>



おでかけスポット



1:350000
0 5km

横須賀・三浦



アートに出会える福祉施設

㊦: サービス種別 ㊧: 主な障がい種別

17 道工房 PickUP

開所当初は、精神障がいのある方の作業所としてスタートした「道工房」。施設の運営委員であり、画家として活動していた方に講師を依頼したパステル画サロンが、アート



活動のきっかけでした。その後、就労支援としてアートに取り組むようになり、絵画のレンタルや販売、画廊「道ギャラリー」の運営と広がっていきました。子どもや認知症の高齢者を対象としたワークショップを開催したり、地域のみなさんもギャラリーを利用するなど、障がいの有無を超えた地域のアート拠点となることを目指しています。施設内に留まるのではなく、さまざまな人と関わっていくことが、活動の幅を広げていくヒントとなっています。

㊦ 就労継続支援B型
㊧ 知的障がい、精神障がい

運営 NPO法人道工房
住所 鎌倉市小町2-12-37 電話 0467-23-8772
web <http://kamakura-michi.com/home/>



18 生活介護事業所 ぶどうの木

㊦ 生活介護
㊧ 知的障がい、身体障がい

月に1回、アートや音楽の時間を設けています。ヴァイオリンの演奏鑑賞や、体で音やリズム感じるプログラム、絵画の制作など、さまざまな取り組みを行っています。

運営 特定非営利活動法人 一麦 住所 横須賀市池上5-3-2
電話 046-852-0150 web <https://ichimugi.or.jp/>



19 山崎薫風

㊦ 生活介護
㊧ 知的障がい

創作活動のなかで、さをり織り、造形、手工芸など、年間をとおしてさまざまな作品を製作しています。また、作品を集めた展示会を不定期で開催しています。

運営 社会福祉法人ラファエル会 住所 鎌倉市台4-5-40
電話 0467-53-8593 web <https://raphaelkai.com/yamazakikunpu.html>



20 シャローム浦上台デイサービスセンター

㊦ 生活介護
㊧ 身体障がい

レクリエーションに創作を取り入れ、創作品の販売を行うほか、作品展を開催しています。また、ウェブサイト内では利用者が製作した作品を、作者紹介とともに公開しています。

運営 社会福祉法人三育福祉会 住所 横須賀市浦上台1-11-1
電話 046-841-0319 web <https://uragamidai-shalom.jp/pages/14/>



おでかけスポット

1 横須賀美術館

豊かな自然に囲まれ、周辺散策と展覧会観覧のどちらも楽しめるのが特長です。また、障がいのあるお子さんとその家族を対象とした造形ワークショップや、点字図書館と連携した鑑賞会など、福祉関連事業にも取り組んでいます。

運営 横須賀市
住所 横須賀市鴨居4-1 電話 046-845-1211
web <https://www.yokosuka-moa.jp/>



J 逗子文化プラザホール

大ホール、小ホールのほか、ギャラリー、練習室を備え、広く市民の活動をサポートする文化施設です。ホールには車いす席や親子室があります。また、多機能トイレには収納式シートも対応しています。

運営 逗子文化プラザパートナーズ
住所 逗子市逗子4-2-10 電話 046-870-6622
web <https://www.bunka-plazahall.com/>





1 : 350000
0 5km

湘南東部



アートに出会える福祉施設

㊦: サービス種別 ㊧: 主な障がい種別

21 朝日ねんどの会

PickUP

約30数年前、陶芸家が自宅のアトリエを養護学校の生徒に開放したことから始まった「朝日ねんどの会」。現在は自分のペースとアイデアで陶芸作品を作り、販売する活動をしています。また、「障がいのある人を受け止める場所」としての幅広い展開も模索しています。ちょっと陶芸をしてみたい、別の事業所に通っているが都合のよい時に不定期に通いたいなどの声もあり、気軽に参加できる「一日陶芸教室」を行うなど、陶芸に出会う入り口を開き続けています。障がい福祉にとって大切な「ゆるやかさ・やわらかさ」を守っていききたい。そんな想いが満ちる場で、日々陶芸と向き合い、活動に取り組んでいます。



㊦ 地域活動支援センター
㊧ 身体障がい, 知的障がい, 精神障がい

運営 特定非営利活動法人あさひ
住所 藤沢市辻堂神台2-2-51 電話 0466-33-4310
web <https://minnadetsunagarou.com/profile/asa/>



22 藤沢市太陽の家 藤の実学園

㊦ 生活介護
㊧ 知的障がい

音楽やスポーツ、織り、創作を通して支援を行っています。外部講師を招いて作る織り製品は、地域のお祭りに出品。毎年6月の「太陽の家まつり」では、一つの創作作品を利用者、地域の方と作り上げ、交流を深めています。

運営 社会福祉法人 光友会 住所 藤沢市鶴沼海岸6-6-12
電話 0466-33-1411 web <https://www.lfa.jp/office/taiyounoie/>



23 エールちがさき

㊦ 就労継続支援B型
㊧ 知的障がい, 精神障がい

古民家を利用した施設で、ゆったりとオリジナルグッズの製作などを行っています。余暇活動で合唱に取り組んでいるほか、公民館でアート活動をする際には、地域の人の参加も可能です。

運営 一般社団法人 エール茅ヶ崎 住所 茅ヶ崎市代官町8-49
電話 0467-51-1131 web <https://yellchigasaki.jimdoofree.com>



24 studio トネリコ

㊦ 生活介護
㊧ 身体障がい, 知的障がい, 精神障がい

陶芸を軸に、絵画や立体造形など表現を中心として活動。作品展や音楽祭の開催にも力を入れており、利用者や家族、スタッフ、地域がつながっていくことを目指しています。姉妹施設に「studio naruto」もあります。

運営 社会福祉法人 翔の会 住所 高座郡寒川町岡田3-18-5
電話 0467-75-0033 web <https://www.syonokai.jp/sisetu/studio-toneriko.html>



(K) 茅ヶ崎市美術館

郷土ゆかりの美術家の作品などに触れる場として、また市民の創作・発表活動を支援する場として開館。美術館の入口までは長いスロープがありますが、移動に不安がある方は入館のご案内をしています。

運営 公益財団法人茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団
住所 茅ヶ崎市東海岸北1-4-45 電話 0467-88-1177
web <https://www.chigasaki-museum.jp/>



(L) 蔵まえギャラリー

昭和6年築のお米屋さんの母屋とその内蔵を使ったアートスペースです。誰でも応募できる展覧会「Vividアート展」では、障がいの有無、プロアマ、年齢国籍などあらゆる障壁を越えた方の作品を毎年展示しています。

運営 合同会社「蔵まえ」
住所 藤沢市藤沢630-1 電話 0466-25-9909
web <https://www.facebook.com/kuramaegallery/>



おでかけスポット



1:350000
0 5km

湘南西部



アートに出会える福祉施設

㊦:サービス種別 ㊧:主な障がい種別

25 嬉々!クリエイティブギャラリー&カフェ PickUp

誰もがその人の得意なことを活かし、嬉々(キキ)として創造的に暮らせる社会をめざして、2022年4月にオープンした「キキ・クリエイティブ ギャラリー&カフェ」。アトリエで制作した作品が展示されているギャラリーカフェの運営、企業へのライセンス提供、ワークショップやイベント企画など、幅広い取り組みをとおして利用者の魅力を発信しています。ギャラリーで展示されている作品の作者がその場にいることや、カフェでの接客を通してお客さんとの交流も生まれています。利用者や職員の「やってみよう」という好奇心を大切にしている施設には、日々アイデアとパワーが満ち溢れています。



㊦ 生活介護
㊧ 知的障がい, 精神障がい, 他

運営 ジョイン・クリエイティブマネジメント株式会社
住所 平塚市明石町14-8 電話 0463-59-9974
web <https://www.kikicreative.jp>



26 ファミリーB型作業所伊勢原

市内施設にて利用者の作品展を開催しています。レクリエーションでは利用者、スタッフで音楽セッションを楽しむほか、地域の方に施設内で演奏発表してもらう機会もあります。

運営 株式会社ベストライフジャパン 住所 伊勢原市桜台3-5-4ライブビル4F
電話 046-373-6408 web <https://best-life-japan.com/family-b/>



㊦ 就労継続支援B型
㊧ 身体障がい, 知的障がい, 精神障がい

27 秦野市地域生活支援センター PickUp ばれっと・はだの

音楽や創作プログラムなどをとおして、障がいのある方の居場所を提供しています。施設内には小さなギャラリースペースもあり、アートをきっかけとした地域との交流を目指しています。

運営 一般社団法人秦野市障害者地域生活支援推進機構 住所 秦野市本町2-7-25
電話 0463-71-5701 web <https://hcp-support-hadano.or.jp/newpage3.html>



㊦ 地域活動支援センター
㊧ 身体障がい, 知的障がい, 精神障がい, 他

28 サンメッセしんわ

利用者と職員で結成されたバリアフリーバンド「とびっきりレインボーズ」は地域のイベント等で演奏をするほか、オリジナル曲をYouTubeでも発信。また毎週月曜20時からFM湘南ナバサ「バリア!フリフリ天国」にメンバー出演中!

運営 社会福祉法人 進和学園 住所 平塚市高根3-16-7
電話 0463-35-3800 web <http://www.shinwa-gakuen.or.jp/guide/syogai/sanmesse.html>



㊦ 就労継続支援B型
㊧ 知的障がい

おでかけスポット

M 平塚市美術館

湘南地域の中央に位置する美術館として、<湘南の美術・光>をテーマに、国内外の優れた美術の鑑賞機会を提供しています。市内の小・中・高・特別支援学校の生徒や先生に向けた鑑賞プログラムも行っています。

運営 平塚市
住所 平塚市西八幡1-3-3 電話 0463-35-2111
web <https://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/art-muse/>



N クアーズテック秦野カルチャーホール

優れた芸術文化に親しめる地域の拠点であり、市民が日頃の文化活動を披露し、交流を育むことのできる施設です。0歳から楽しめるコンサートも開催しています。

運営 みんなの文化会館はだのパートナーズ
住所 秦野市平沢82 電話 0463-81-1211
web <https://www.townnews.co.jp/pr/hadanoculture/>



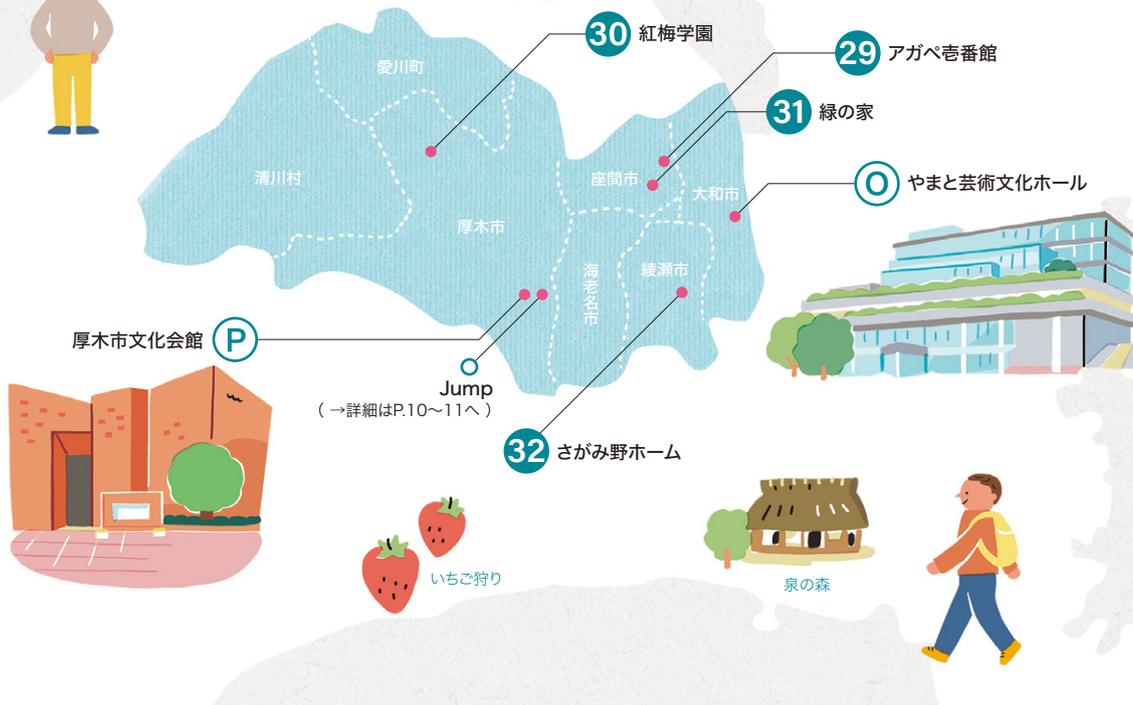


1 : 350000
0 5km

県央



ひまわり畑



アートに出会える福祉施設

㊦: サービス種別 ㊧: 主な障がい種別

29 アガペ彦番館 **Pick up**

施設で生活するみなさんの創作活動として陶芸や絵画、ちぎり絵などの作品を作っています。活動を支えるのは座間市近郊から集まるボランティアのみなさん。コロナ禍



以前は年間延べ1,000名ほどが登録、活動していました。また、音楽活動では近所の保育園に向向いて演奏会を行うなど、地域との関わりも大切にしてきました。コロナ禍においては、それまでグループで取り組んでいたものに人数制限がかかり、個別活動を余儀なくされましたが、一人ひとりとじっくりかかわることで見えてくる、新たな発見もありました。その人らしい表現を大切に、一人ひとりの個性を見つけていく活動につなげていきたいと考えています。

㊦ 施設入所支援
㊧ 身体障がい、知的障がい

運営 社会福祉法人日本キリスト教奉仕団
住所 座間市小松原2-10-14 電話 046-254-7111
web <http://www.agape-jcws.com/ichibankan.html>



30 紅梅学園

㊦ 生活介護、施設入所支援
㊧ 知的障がい

習い事として、絵画や、粘土・折り紙などで作品を製作したり、音楽やダンスに取り組んでいます。施設内で作品を展示をしたり、発表する機会もついています。

運営 社会福祉法人 紅梅会 住所 厚木市上萩野5303
電話 046-241-1621 web <https://www.koubaikai.or.jp/service/koubai-gakuen>



31 緑の家

㊦ 生活介護、就労継続支援B型
㊧ 知的障がい

年に1回、地域交流演奏会「ふれあいコンサート」を開催し、地域の方とともに音楽を楽しんでいます。また、日用雑貨などの自主製品を地域の催し物や神奈川県生命の星・地球博物館にて販売しています。

運営 社会福祉法人慈湧会 住所 座間市東原1-10-62
電話 046-257-3539 web <https://midorinoie.info>



32 さがみ野ホーム

㊦ 生活介護、施設入所支援
㊧ 知的障がい

地域の大学OB会と共催で「チャリティーアート展」を開催。利用者の制作した絵画、書、創作物のほか、校友会会員とその家族の作品も展示しています。

運営 社会福祉法人 聖音会 住所 綾瀬市深谷中7-1-9
電話 0467-76-2600 web <https://www.seionkai.or.jp/sagamino/>



0 やまと芸術文化ホール

さまざまなジャンルで活躍するプロのアーティストの公演や展示を開催するほか、どなたでも気軽に参加いただけるイベント「みんなの音楽会」では、手話通訳や難聴者支援システム等のサポートを行っています。

運営 やまとみらい(大和市文化創造拠点等 指定管理者)
住所 大和市大和南1-8-1 電話 046-259-7591
web <https://yamato-bunka.jp/hall/>



P 厚木市文化会館

丹沢山系を背に緑に囲まれた煉瓦造りの建物で、「県央のコア文化の殿堂」と呼ばれ、市民や周辺地域の文化活動の拠点として広く利用されています。大ホール、小ホールには車いす席を設けています。

運営 公益財団法人厚木市文化振興財団
住所 厚木市恩名1-9-20 電話 046-225-2588
web <https://atsugi-bunka.jp/>



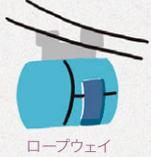
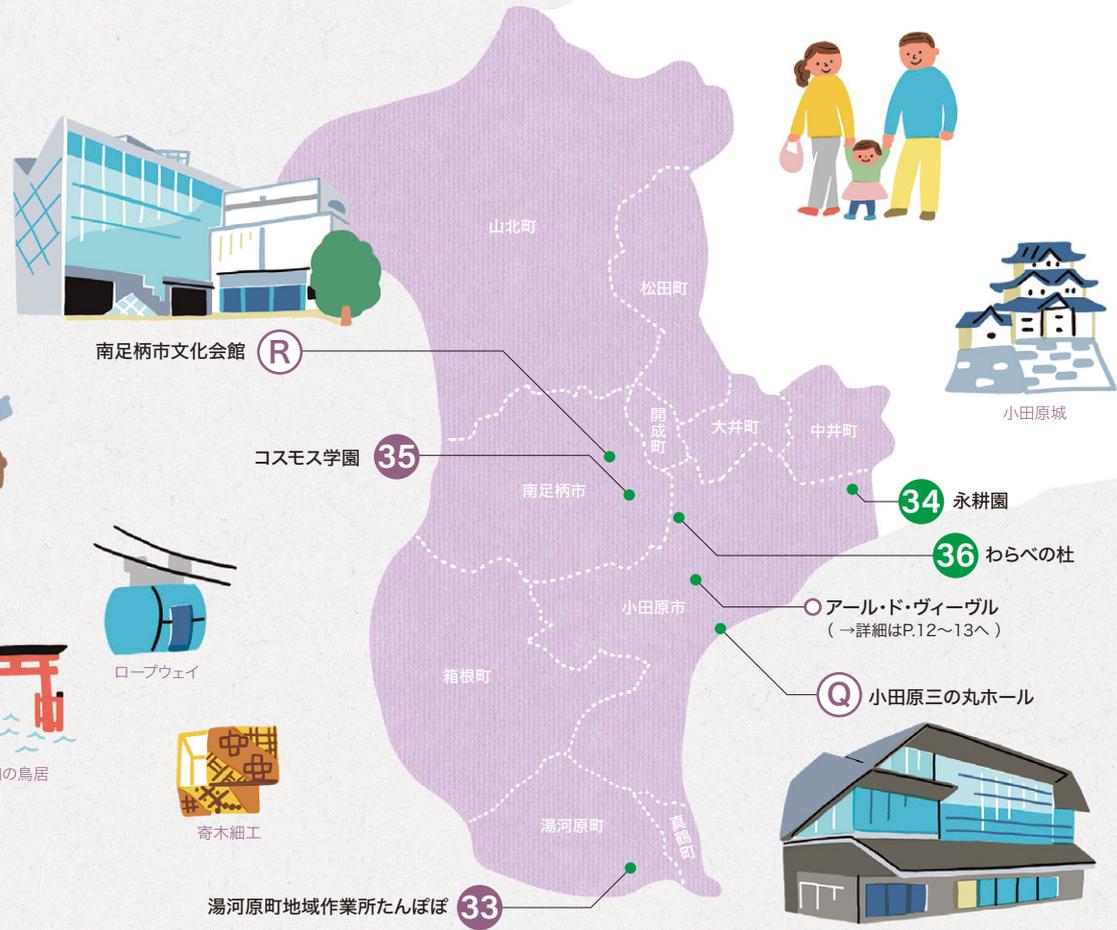
※2023年7月1日～2025年1月3日は改修工事のため休館

おでかけスポット



1 : 350000
0 5km

県西



アートに出会える福祉施設

㊦: サービス種別 ㊧: 主な障がい種別

㊦㊧ 湯河原町地域作業所たんぽぽ PickUP

「湯河原町地域作業所たんぽぽ」では大人から子どもまで、さまざまな障がいのある人が過ごしています。県西地区アート作品コンクールへの出展をきっかけに、ちぎり絵の



共同作品を作るようになりました。みんなで一つの作品を制作することで、それぞれの自由な感性や個性が集まった作品ができあがります。地域のアートフェスティバル「湯河原・真鶴アート散歩」にも参加、施設に作品を飾ることで、地域の方々に知ってもらいきっかけになりました。コロナ禍でイベントが中止になるなど、制作・展示を続けていくことが難しい状況ではありますが、施設のウェブサイト上でも作品を紹介しています。

㊦ 生活介護、就労継続支援B型、地域活動支援センター、児童発達支援、放課後等デイサービスなど
㊧ 身体障がい、知的障がい、精神障がい

運営 特定非営利活動法人湯河原町地域作業所たんぽぽ
住所 足柄下郡湯河原町中央2-21-5 電話 0465-64-0038
web <https://yugawara-tanpopo.jimdofree.com>



㊦㊧ 永耕園

㊦ 施設入所支援、短期入所
㊧ 知的障がい

日中活動で機織りに取り組み、洋服や日用品、アクセサリなど、試行錯誤しながら製作、商品化しています。アート作品として美術展やコンクールにも積極的に出品し、活動の場を広げています。

運営 社会福祉法人永耕会 住所 小田原市曾我岸148
電話 0465-42-2268 web <http://eikou-kai.or.jp>



㊦㊧ コスモス学園

㊦ 生活介護、就労移行支援、就労継続支援B型
㊧ 身体障がい、知的障がい、精神障がい

中沼ジョブセンター、中沼ケアセンター、松田センターの3つの施設で構成されており、刺繍やビーズなどの製品を作っています。法人として、県西地区アート作品コンクールへも出品しています。

運営 社会福祉法人足柄緑の会 住所 南足柄市中沼832
電話 0465-72-0880 web <https://www.n-csm.jp/facilities/cosmos-gakuen/>



㊦㊧ 小田原三の丸ホール

㊦ 福祉型障害児入所施設
㊧ 知的障がい、発達障がい

県西地区文化事業で行っているアート作品コンクールに絵画や造形などの作品を出展しています。法人内の他施設でも造形作品を発表しており、受賞目指して法人全体でアート活動に力を入れています

運営 社会福祉法人よるべ会 住所 小田原市小竹186
電話 0465-43-1515 web <https://www.yorube.or.jp/custom6.html>



おでかけスポット

㊦㊧ 小田原三の丸ホール

小田原城を臨む立地に2021年に開館しました。車いす席設置、ヒアリンググループ貸出、筆談などに対応するほか、ホワイエと呼ばれるホールの待合スペースを、利用がない日に開放しています。

運営 小田原市
住所 小田原市本町1-7-50 電話 0465-20-4152
web <https://ooo-hall.jp/>



㊦㊧ 南足柄市文化会館

市民の芸術文化の創作活動の拠点として、また文化の発信基地として、多くの方にご利用いただいています。社会福祉協議会と連携した、福祉関連の映画の上映会なども開催しています。

運営 アクティブパートナーズ
住所 南足柄市関本415-1 電話 0465-73-5111
web <https://kintaromirai-hall.com/>



関連リンク集

障がい者の芸術文化活動に関する情報が掲載されているウェブサイトをご紹介します。

全国

厚生労働省「障害者芸術文化活動普及支援事業」

<https://arts.mhlw.go.jp/>

障がいのある人が芸術文化にふれ、楽しみ、深めることができる社会づくりを推進する支援体制を全国に展開しています。



厚生労働省「障害者の芸術文化活動」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougaishahukushi/bunka.html

障がい者による文化芸術活動の推進に関する法律及び基本的な計画など、施策の動向について見るすることができます。



神奈川県



神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター

<https://k-welfare.org/>

障がいのある人が、身近な地域で芸術文化活動に触れることができるように、「つなぐ」「つくる」「支える」の3つの柱をもとにさまざまなサポートをします。



かながわ障がい者社会参加サポートサイト

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/yv4/cnt/kssss/top.html>

障がい者向けの配慮や割引などの優待サービスを行っている施設等を「かながわ障がい者社会参加サポーター」として登録するとともに、施設等のサービス内容を地域やジャンルごとに分類して掲載しています。



共生共創事業

<https://kyosei-kyoso.jp/>

「ともに生きる ともに創る」を目標に、年齢や障がいなどにかかわらず、子どもから大人まで全ての人が、舞台芸術に参加し楽しめる事業を実施しています。



ともいきアートサポート事業

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/m8u/art/tomoikiart.html>

障がいの程度や状態にかかわらず五感を用いた鑑賞・発表の機会の創出によって、誰もが楽しみ、つながることができるような事業を実施し、障がい者の文化芸術の普及支援を行うことで、共生社会の実現を図る取組みを行っています。



ともに生きる社会かながわ憲章マッチングサイト

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/1368/tomonikiru/index.html>

障がい者の活躍の場を広げることを目的に、「イベント主催者」とパラスポーツ体験、ハンドメイド商品の販売、アートのワークショップ等の「ブース出展希望者」のマッチングを行います。



生涯学習情報システム「PLANETかながわ」

<https://www.planet.pref.kanagawa.jp/>

神奈川県内の生涯学習に関する講座・イベントや県内で活動中の指導者、団体・グループ情報、大学の公開講座などさまざまな「学び」に関する情報を集約し、まとめて検索できるシステムです。

市町村



ラポール for Smile(横浜市)

<https://www.yrsrapport.or.jp/>

障がい者の健康づくりと社会参加、そして市民相互の交流をはかることを目的に、障害者スポーツ文化センター横浜ラポール/ラポール上大岡が運営する情報発信サイトです。両施設が企画する文化事業などを紹介しています。



かわさきパラアート情報サイト「ばらあーとねっと」(川崎市)

<https://kbz.or.jp/paraartnet/>

障がいのあるなしに関わらず親しめる文化芸術活動＝「パラアート」の活性化につながることを目標に、パラアート推進事業の情報をはじめ、パラアートに取り組む団体・個人のみなさんから寄せていただいたパラアートに関するイベントや募集等の情報を発信していきます。



さがみ地域ポータルサイト(相模原市)

<https://www.sagami-portal.com/about>

「相模原市民による市民のための情報ネット」として、市民交流の場、趣味のサークルやさまざまな地域活動団体、市民活動団体等の広報、仲間作りの場など必要な情報検索に活用できます。

神奈川県内の文化施設 各市町村が所管する文化施設や

神奈川県

<https://www.pref.kanagawa.jp/menu/3/14/78/index.html>



横浜市

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kanko-bunka/bunka/bunkashisetsu/shisetsu.html>



川崎市

<https://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/32-2-0-0-0-0-0-0-0.html>



相模原市

<https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/kankou/bunka/index.html>



横須賀市

<https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/shisei/shoukai/shisetsu/annai/shakaikyokuiku/index.html>



鎌倉市

<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/kyouiku/bunka/shisetsu/index.html>



逗子市

<https://www.city.zushi.kanagawa.jp/shisei/sisetu/1007837/index.html>



三浦市

https://www.city.miura.kanagawa.jp/kanko_bunka_sports/kominkan/index.html



葉山町

<https://www.town.hayama.lg.jp/asobi/index.html>



藤沢市

<https://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/kyoiku/bunka/shisetsu/index.html>



茅ヶ崎市

https://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/shisetsu_info/s_kyoiku/index.html



寒川町

https://www.town.samukawa.kanagawa.jp/sports_bunka_kanko/shogaigakushu/shogaigakushushisetsu/index.html



文化庁「障害者の文化芸術活動の推進」

https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/shogaisha_bunkageijutsu/index.html
文化庁が行う障がい者の文化活動にかかわる取組みについて掲載しています。



国立特別支援教育総合研究所

<https://www.nise.go.jp/nc/>
特別支援教育のナショナルセンターとして特別支援教育の振興を図るため、研究や特別支援教育関係職員に向けた研修を行っています。ウェブサイトでは、授業づくりに役立つ情報も提供しています。



生涯学習施設などについては、以下もご参考ください。

平塚市

https://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/shisetsu/page-c_00373.html



小田原市

<https://www.city.odawara.kanagawa.jp/public-i/facilities/>



秦野市

<https://www.city.hadano.kanagawa.jp/www/contents/1001000004134/index.html#2>



南足柄市

<https://www.city.minamiashigara.kanagawa.jp/shisetsu/kyoiku/>



伊勢原市

https://www.city.isehara.kanagawa.jp/categories/bunya/shisetsu/bunka_sports/



中井町

<https://www.town.nakai.kanagawa.jp/choseijoho/kokyoshisetsuannai/index.html>



大磯町

http://www.town.oiso.kanagawa.jp/bunka_sports/bunka/bunkashisetsu/index.html



大井町

<https://town.oi.kanagawa.jp/life/1/8/>



二宮町

<https://www.town.ninomiya.kanagawa.jp/category/1-4-0-0-0-0-0-0-0-0.html>



松田町

<https://town.matsuda.kanagawa.jp/soshiki/12/bunkashisetsu.html>



厚木市

https://www.city.atsugi.kanagawa.jp/bunka_sports/bunkashisetsu/index.html



山北町

<http://www.town.yamakita.kanagawa.jp/category/1-13-0-0-0.html>



大和市

<https://www.city.yamato.lg.jp/gyosei/yamatoshiinfo/kokyoshisetsu/gakushubunka/index.html>



開成町

<https://www.town.kaisei.kanagawa.jp/Info/61>



海老名市

<https://www.city.ebina.kanagawa.jp/shisetsu/kunka/bunka/index.html>



箱根町

<https://www.town.hakone.kanagawa.jp/index.cfm/6,0,14,99.html>



座間市

<https://www.city.zama.kanagawa.jp/shisetsu/kyoiku/index.html>



真鶴町

http://www.town.manazuru.kanagawa.jp/kurashiji_tetsuduki/kokyoshisetsu/index.html



綾瀬市

<https://ayase-manavi.net/>



湯河原町

<https://www.town.yugawara.kanagawa.jp/site/museum/>



愛川町

<https://www.town.aikawa.kanagawa.jp/shisetsu/bunka/index.html>



清川村

https://www.town.kiyokawa.kanagawa.jp/Parenting_education/shakaikyoiiku/700.html



神奈川県障がい者芸術文化活動支援センターのウェブサイトでも「県内関連情報」をご紹介します。こちらのページもご参考ください。
<https://k-welfare.org/infomation/>



「
いっしょにたのしむおさんぽマップ
障がい福祉とアートが会うところ
」

編集	田中真実、川村美紗	写真	金子愛帆 (P.4~13)
デザイン	水色デザイン	イラスト	熊本奈津子
印刷	共進印刷	テキスト	川村美紗、北沢理美
発行	神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター 〒220-0004 神奈川県横浜市西区北幸1-11-15 横浜S Tビル地下1階 (認定NPO法人 S Tスポット横浜 地域連携事業部内)		
発行日	2023年3月31日		

本事業についての問い合わせ：神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター
〒220-0004 神奈川県横浜市西区北幸1-11-15 横浜S Tビル地下1階
(認定NPO法人 S Tスポット横浜 地域連携事業部内)
TEL：045-325-0410 FAX：045-325-0414 MAIL：info@k-welfare.org
<https://k-welfare.org> 神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター
<https://www.stspot.jp> 認定NPO法人 S Tスポット横浜



STSpot
Yokohama

